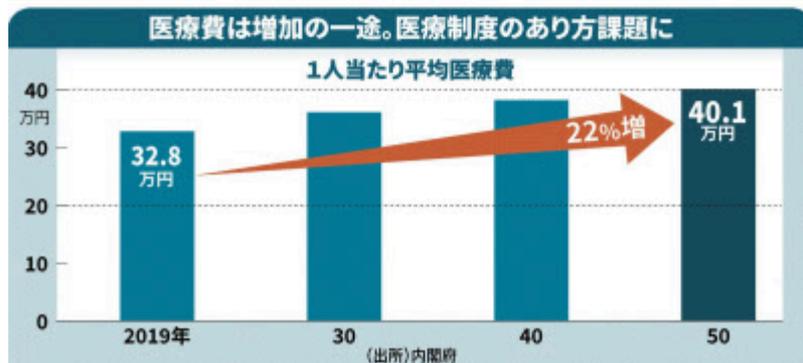
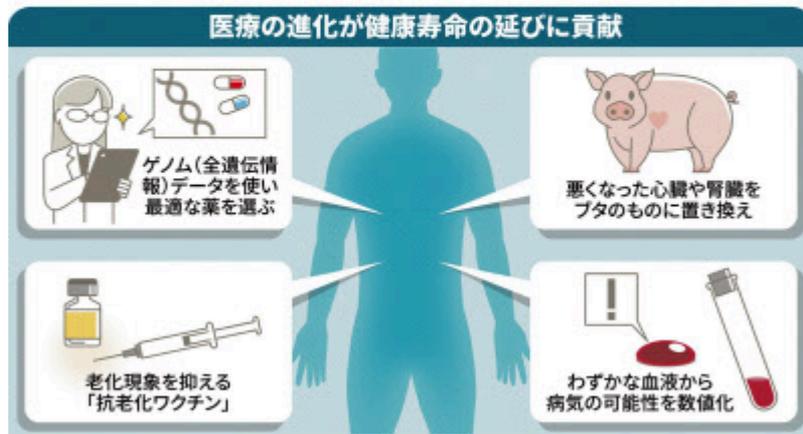
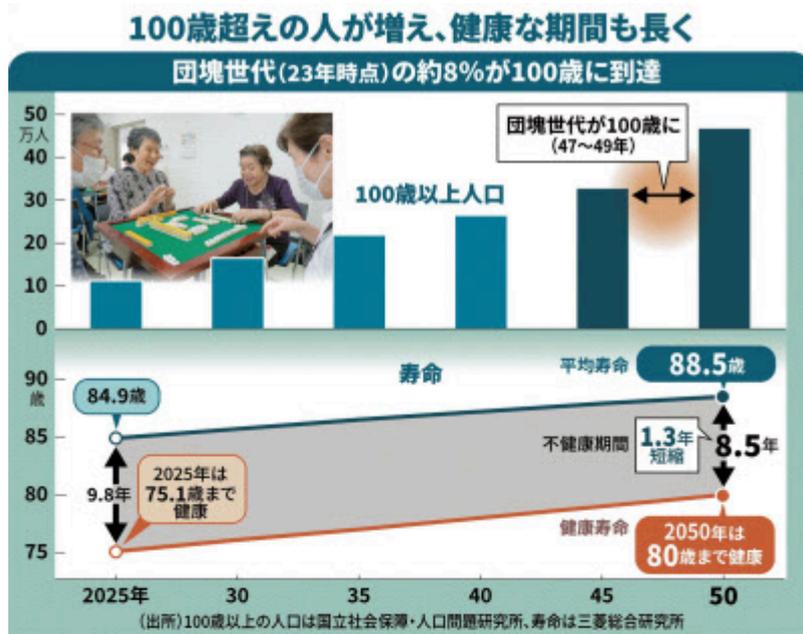


100歳のスター続々？ 団塊の8%「百寿」に がん・心臓病治療に光、医療費抑制が課題

2024/7/29付 | 日本経済新聞 朝刊

日本人の寿命が延び続けている。2050年には健康でいられる期間が80歳まで延び、団塊の世代は12人に1人が100歳を越す見通しだ。技術革新でがんや心臓病などの予防・治療が進むとみられるためだが、薬代が膨らみ医療財政が悪化する恐れもある。長くなる人生、あなたは
どう過ごしますか。



「きょうの肉じゃがはにんじんがおいしかった。まあまあの80点」

23年9月に100歳になった川崎市の芦名広喜さんは自らの日常を動画配信する「ユーチューバー」。同居する孫の秀介さん（33）がつくる昼ご飯が楽しみだが、評価は「やや辛口」だ。

味の素の元技術者で、退職後はテニスにのめり込んだ。今は週4回デイサービスに通う。好きなものは大相撲とイチゴ味のシェーク。長寿の秘訣を問われても「特に何もしてません」と答えるような飾らない人柄が若者らに受け、動画の総再生回数は3億回を超える。

身体機能や認知機能は衰えたものの、ウナギやすしを食べ、旅行し、オフ会でファンと交流するなど日々を元気に過ごす。

1990年代、100歳の双子の姉妹「きんさん・ぎんさん」が国民的な人気者になった。そんな「ご長寿スター」が続々と登場するかもしれない。

80歳まで健康

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、

出生率や死亡率が中程度で推移した場合に2050年時点の100歳以上人口は46.7万人と23年時点の約5倍に増える。

中心は1947～49年生まれの団塊世代だ。48年10月～49年9月生まれは2023年時点で約200万人おり、このうち8%の16.6万人が100歳を迎えると予測される。

健康寿命も延びる。三菱総合研究所は25年時点の75.1歳から50年は80歳になるとみる。平均寿命との差である不健康期間は1.3年縮まり、生活の質（QOL）を保って天寿を全うする「ピンピンコロリ」に近づく。

背景には医療技術の進歩がある。老化現象を抑える抗老化ワクチンの開発が進み、がん対策も遺伝情報を基に最適な薬や治療法を選ぶ「個別化医療」が広がるとみられる。

医薬基盤・健康・栄養研究所の中村祐輔理事長は「50年には全てのがんの5年生存率が現在の60%台から85%程度まで高まるだろう。がんが治る人が増えて労働力の維持、介護負担の減少につながる」と語る。

心臓病などの治療ではブタの心臓や腎臓を人に移植する「異種移植」の実施が近年、米国などで相次ぐ。日本も動物実験が24年に始まる見込みだ。社会の理解や倫理面の課題はある



孫の秀介さん(右)と一緒に昼食をとる芦名広喜さん（川崎市）

が、普及すれば臓器提供者（ドナー）不足を解消できる。

病気の予測や早期発見にも期待がかかる。大阪大学発のイムノセンス（大阪府吹田市）は「いのち輝く未来社会のデザイン」を掲げる25年国際博覧会（大阪・関西万博）で新技術を披露する。手のひらサイズのセンサーを使い、10分程度で微量の血液や唾液から心臓病などの可能性やストレス度を数値化する。

問題は医療費だ。内閣府は50年の1人当たりの平均医療費を19年に比べ22%増の40万1000円と試算した。先端技術を駆使した高額な新薬や治療が広がれば費用はさらに膨らむ。高齢者1人を支える現役世代の人数は1960年の11.2人から2020年は2.1人に減った。50年には1.4人になり、医療財政の悪化が見込まれる。

「社会貢献」重要に

高齢者はこの状況をどうみているのか。思いを聞こうと都内の老人クラブを訪ねた。

「100歳まで健康でいられればよいが、期待6割、不安4割」と話すのは団塊世代の福田いく子さん（74）。認知症が不安の種で、予防によいと聞き同クラブでマージャンを始めた。

看護学校教員だった現役の頃は「老後は旅行に行くなどゆっくりしたい」と考えていた。いざ引退すると「社会とつながりながら人の役に立ちたい」と思うようになり、老人ホームで傾聴のボランティアに取り組むことにした。若い頃の話をする人が多いという。

老年学が専門の秋山弘子・東京大名誉教授は「健康に生きるには社会の中で何らかの役割を持って生きる『貢献寿命』を延ばすことが大事だ」と話す。

老人クラブでは「100歳までなんて生きたくない」と即答する人もいた。「寝たきりになったら家族に迷惑をかける」「介護者がおらず孤独死するかも」との声があった。老後資金の不安も尽きない。幸福と長寿の両立に向けた課題はなお多い。

（尾崎達也、藤井寛子）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.